



兵庫支部NEWS H22年 12月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel078-792-6130)

ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

総勢27名が集い、年忘れの会 平成22年度忘年会開催

兵庫支部忘年会は、毎年12月第1土曜日の開催が恒例となり、今年は12月4日午後5時半から、神戸市内の創作和食レストラン「神戸彩花」に於いて開催された。

関西支部から3名、会友2名及び兵庫支部会員22名の総勢27名が参加し鍋をつつきながら、飲み放題のお酒類に酔いながら、今年も元気で新年を迎えられる事に感謝！感謝！



高山幹事が進行役となり開会宣言、そして大村(宴もたけなわの忘年会)相談役が乾杯の音頭を取り宴会が始まった。

藤田幹事(35商)の呼び掛けに応じて、初めて同窓会活動に参加という豊田康雄氏(35商)は、三金ゴルフにも参加の意向を示されていた。また10年近く支部活動から離れていた森護氏(47米英)が、今年7月の支部総会に続いて忘年会に

(高山幹事)も元気な姿を見せ、又々神戸に戻ってきた田副忠亮氏(45中国)も出席し旧交を温めていた。



(初参加の豊田氏)

関西支部から出席の出口幹事長は、兵庫支部との交流を深めたいと、佐坂幹事は今年立ち上げたハイクの会「しゃくなげ会」を兵庫と合同開催をと、そして生雲さんは、会長を務めているボランティアの会について、そしてチャリティー(別項参照)について

(出口幹事長)

前原賢作氏(40商)に功労賞伝達 兵庫支部月例会11月「三金会」にて

11月19日(金)午後6時から、兵庫支部月例会である「三金会」が定例会場の「本館牡丹園」で開催された。

まず、所用で直ぐ帰らなくてはならないという前原氏に、先月開催の同窓会総会で授与された「功労賞」賞状が、大村相談役から手渡された。



前原氏は平成16年6月から3期6年間兵庫支部幹事として(前原氏(右)に賞状授与)支部活動の発展に寄与され、表彰されることになっていたが、都合により総会に出席できなかった為、この日賞状の伝達が行われたのである。

この日は久しぶりに円卓が満席となる出席者で、忘年会出欠状況、関西・兵庫合同ゴルフの反省、本部総会・評議会等が話題となる。

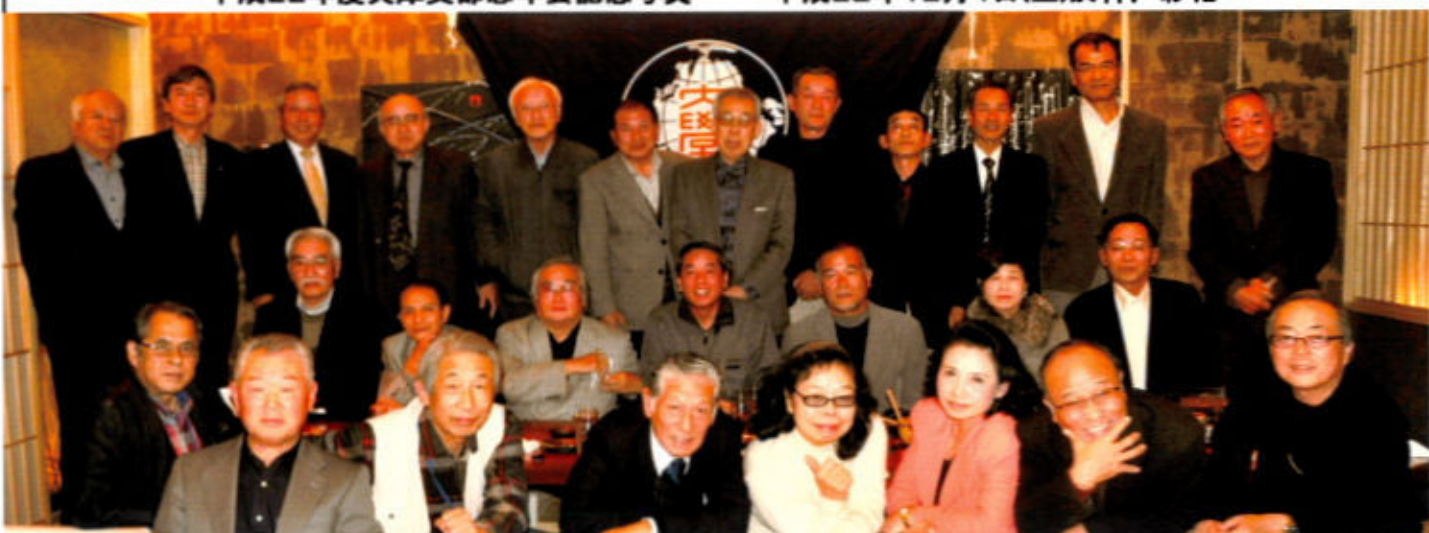
出席者は(敬称略・順不同)大村、中村、安徳、山田、松山、平間、山本、永翁、名越、前原の10名。

それぞれ出席者にアピールした。安徳兵庫支部長の挨拶で閉会となり、全員の記念写真を撮影して散会となったのは午後7時半を過ぎていた。



折しも「神戸ルミナリエ」が開催中であり、そちらへ向かった人もあったのだろうか。二次会へ向かうタクシーから、ものすごい行列に出くわしたけど。

平成22年度兵庫支部忘年会記念写真 平成22年12月4日(土)於神戸彩花



名越、出口、佐坂、前原、河野、平間、高尾、中村、浜田、久芳、高山、二宮
森、松山、大村、豊田、植松、安徳、生雲、田副
藤田、福永、永翁、富山、謝、山田、大西

インド便り

インドの医療事情体験談

高森千賀子(44米英)

高熱に頭痛と吐き気の症状でダウンして、マラリアかと疑った。最初の医者(1番目)の抗生物質で下痢になり、2番目の医者へ。彼は隣村の政府の病院に勤務していて、マラリアと腸チフスの検査を指示した。政府の病院と言っても、医師が3人いて、日本の様に内科・外科などと分かれてはいない。すべての病気の診察をする。入院設備もない。診察料は5円だ。

検査室は狭くて汚らしい。検査技師というより、その辺のおっさんと言う感じの人だ。血液検査で前の人の血液を採取した針で、私の指に刺そうとしたので、怖くてストップをかけた。「使い捨ての針はないのか」と聞くと、「あるよ」とホコリだらけの箱の中から取り出してくれた。彼はゴム手袋もせず素手だし、消毒液は器に入っていない、机の上に無造作に置いてある綿をちぎってそのまま拭きただけだ。採取した血液をプレパラートに乗せるが、そのプレパラートも剥き出しで置いてあり、おっさんは自分のズボンでサッサと拭いて使用した。検査の結果が判明する迄30分かかるといので、そこに座っておっさんと喋っていた。彼は次々にやって来る患者の検査に、またもや前の針を使い回し始めた。おーお、私は身震いした。私の検査結果はシロだった。食欲不振を医者(2番目)に告げると、ある飲物を勧められた。

それを飲むや否や、手足のヒラが真っ赤になり、猛烈に痒くて一晩中眠れなかった。アレルギーだとのこと。それで3番目の医者へ。

彼はカジュラホの政府の病院に勤務で、マラリアとHIVの検査をした。その検査人は手袋をして使い捨ての針を使用し、終わったら焼却して見せてくれ、ヤレヤレだ。医者(3番目)に「どうして(3番目の医者へ)HIVの検査をするのか」と半分怒りながら聞くと、「別に大した意味はない。ノープロブレム」と言う。この検査でもシロだった。その頃には高熱は引いていて頭痛だけが残っていた。

3番目の医者から隣町の医者を紹介されて行った。鉄分が少し不足しているとのこと。症状は改善されず「脳血栓ができていますので」と不安が募ってきた。

その矢先、たまたまデリーに行く用事があり、大きい病院に行く事に決めた。大使館のホームページにある脳外科は医科大学も併設しており、教授が診察してくれた。MRI、X線、血液検査などをしてもらったが、どこにも異常は無く、胸をなでおろした。しかし支払い費用にはびっくり！日本で保険がない場合と同じ位だった。この物価の安い国でこんなに高額なら庶民には到底検査治療は受けられない。裕福層だけが高度医療を受けられて長生きできるのだろうか。

翌日に歯科に行った。デリーに行く2~3日前にこれまた運良くというかどうか、差し歯が取れたのだ。これもネットで調べて、最新の設備がありそうな歯科に。医院には先生はおろか、患者もいなく、ただ受付だけだ。そこから医者(4番目)に電話してやってきた。確かに装置など日本と遜色なく安心した。



平成22年度兵庫支部忘年会出席者名簿

- 大村実良(33商) 藤田博保(35商) 豊田康雄(35商)
 高尾 巖(36商) 河野旺生(36商) 平間正昭(37商)
 名越英昭(37米英) 二宮慶治郎(38米英) 前原賢作(40商)
 中村明人(41商) 永翁正臣(41商) 安徳信義(44商)
 松山 仁(44商) 山田結昭(44商) 福永憲彦(44商)
 浜田勝義(44米英) 植松久治(44米英) 久芳健二(44中国)
 田副忠亮(45中国) 高山行雄(45米英) 大西 敏(46国文)
 森 護(47米英) 以上 兵庫支部 22名
 出口耕三(44米英) 関西支部幹事長
 佐坂茂美(43米英) 関西支部幹事
 生雲文枝(48国文) 関西支部会員 以上関西支部3名
 謝美華(会友) 富山幸子(会友) 以上2名
 総合計 27名

チャリティコンサートのご案内

忘年会席上で紹介されたチャリティコンサートについてご案内します。

生雲文枝氏が会長を務める「大阪なかのしまクラブ」では、戦後間もなく、捨て子8人を預かった吉村静枝(初代館長)が食糧難で子供たちの食事に困っていた時、賀川豊彦の勧めでミルクを求め瀬戸内海の小島豊島(てしま)に移り住み、開設した乳児院、豊島親愛館の子供たちのために、チャリティコンサートを2月19日(土)大阪クリスチャンセンターで開催する。徳永延生トリオによるクロマチックハーモニカの演奏で、当日券2500円(前売2000円) 問合せ先:生雲文枝

メール:f_ikumo@h7.dion.ne.jp

大阪クリスチャンセンターのご案内



医者(5番目)は「あなたの歯の色は変色している。内はずべてドイツ製のセラミックだ」と高額な治療を勧めた。「日本で治療してもらいます」と断ると、差し歯をつけるだけでも5千円も請求だ。これまたびっくり！その後別室に通され、私(6番目)の下には、ソニヤ・ガンジーさん、日本大使館の人々、日本企業の面々もきている世界から大金をかけて治療を受けにやってくるという話を延々と聞かされてうんざり。デリーの大きい病院の歯科部にすべて自分の部下がいるとのこと、彼も大病院に日頃はいる訳だ。お金儲けの治療ではなく、もっと庶民の為の治療をして欲しいものだ。

インドの医療は世界のトップに決して引けは取らないし、肝臓・腎臓移植には海外からも多数来ている。移植には莫大の費用がかかるが、インドでは安く移植できるのだ。貧しさ故に腎臓を売る人が多くいる。悪徳医者は、字の読めない人に同意書にサインさせて、勝手に腎臓を摘出する。こういう恐ろしい事が日常茶飯事に行われている。

今回の体験で、改めて日本の医療の素晴らしさを認識するとともに、日本人として自慢したいと思った。

熊野街道を歩く 一第5回一

JR東岸和田駅からJR熊取駅まで

11月10日(水)10時半過ぎ、JR東岸和田駅に到着し、前回見つけられなかった「恋ざめの淵」及び



「かわず鳴かずのどんび淵」を確認するため約600m引き返し所在を確認した。恋ざめの淵は(写真左)住宅の間を通り抜けた空き地に、どんび淵(意味が判らん)は道路脇にひっそりと佇み、何の標識もないので見過ごしたのだろう。



そこから南西へ、本来のコースに戻り暫く歩くと、道の池畔にやてきた。NHKの街道てくてく旅で紹介されたお地蔵さんと手造りの案山子が出迎えてくれる。この池沿いの道が本来の熊野街道らしいのだが、行き止まりになっているとのネットのレポに従い引き返し府道経由の廻り道に行く。

やがて府道沿いの三和製作所の前にきた。(写真右)ここに麻生川王子跡があったとか。社屋のみ撮影。



府道から左折して暫く行くと「堂ノ池」「唐間池」と池沿いに歩き、「半田一里塚」の標識があった。



説明によると、街道沿いには一里塚が設置されていたが、それらの中でほぼ完全な形を残す数少ないものの一つ。高さ約4m周囲約30mで樹木に覆われている、と。

そこから真っ直ぐ4~500m位小学校の前を通り過ぎた角に「道しるべ地蔵」さん(右)がある。屋根に右 おぐり 左 みずま と書いてあるそうだが、判読できなかった。そこから100mばかり行った三叉路に「牛神」さんが祀られ、その側には「麻生中」の地車庫が建っている。すでに貝塚市内だが、泉州一帯にはこんな地車庫が建てられているのだろう。



三叉路を右折し、府道を越えて四辻を左折して暫く進み、水間鉄道の踏切を越える。水間鉄道は、南海貝塚駅から水間観音までの5.5kmを結ぶ鉄道だ。丁度電車が通りかかったのでパチリ(右)踏切を渡り少し進むと石才会館だ。この建物の横に「牛神」さんが祀られていた。(写真左)そしてここにも石才町の地車庫があった。会館の裏手の溜池の水は抜かれて干し上げられていた。池沿いに歩き、住宅街を抜け府道を横切り、貝塚中央病院前にきた。

(牛神さん)



この病院周辺に積善寺城(シヤケンジ)があったのだそう。永禄元年(1558)根来衆が岸和田の三好氏と戦った際、その砦として築かれ、秀吉の根来攻めの際総勢9500名が立て籠もり、落城せず。最後は貝塚寺内のト半斎了珍の仲介により、和談開城したと説明されている。そこから少し進み緩やかな坂道に差し掛かる。長谷川の坂と呼ばれ白壁土塀で囲まれたちよっぴり雰囲気のある坂道だ。右手は長谷川屋敷とか。そのまま真っ直ぐに進むとJR阪和線にぶつかり、左折して線路沿いに進み踏切を横切り4~500m位で「丸山古墳」の標識がある。路地を通り抜けると小高く盛り上がった前方後円墳がある。秀吉が積善寺城を攻めた時に本陣を置いたとのこと。少し引き返し熊野街道に戻り、鞍持王子があったともいわれる正福寺を訪ねるが、それらしきものはどこにも見当らず。岸和田の三好氏と根来衆が戦った際、兵火にかかり伽藍の殆んどを焼失。1661年快楽により再興されたとのこと。すぐ近くに南近義神社(ミナトキ)がある。

この病院周辺に積善寺城(シヤケンジ)があったのだそう。永禄元年(1558)根来衆が岸和田の三好氏と戦った際、その砦として築かれ、秀吉の根来攻めの際総勢9500名が立て籠もり、落城せず。最後は貝塚寺内のト半斎了珍の仲介により、和談開城したと説明されている。

そこから少し進み緩やかな坂道に差し掛かる。長谷川の坂と呼ばれ白壁土塀で囲まれたちよっぴり雰囲気のある坂道だ。右手は長谷川屋敷とか。そのまま真っ直ぐに進むとJR阪和線にぶつかり、左折して線路沿いに進み踏切を横切り4~500m位で「丸山古墳」の標識がある。路地を通り抜けると小高く盛り上がった前方後円墳がある。秀吉が積善寺城を攻めた時に本陣を置いたとのこと。少し引き返し熊野街道に戻り、鞍持王子があったともいわれる正福寺を訪ねるが、それらしきものはどこにも見当らず。岸和田の三好氏と根来衆が戦った際、兵火にかかり伽藍の殆んどを焼失。1661年快楽により再興されたとのこと。

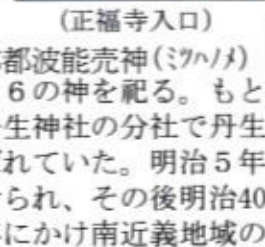
すぐ近くに南近義神社(ミナトキ)がある。



主神の弥都波能売神(ミツノメ)をはじめ36の神を祀る。もとは吉野の丹生神社の分社で丹生神社と呼ばれていた。明治5年村社に列せられ、その後明治40年から42年にかけて南近義地域の鞍持王子・近木王子を含む数々の神社を合祀して、南近義神社と改められた。



次に訪れたのは加支多神社である。ここは鶴原王子(貝田王子とも)が合祀されているとか。境内にそんな説明板がないか探すも見当らず。四角池の横を通り六叉路に出た所で道を間違えたらしい。南西に進むべきの処、南東に進んでしまったのだ。お蔭で弘法大師像(左)に会う。水不足で飢饉に喘いでいた時弘法大師が来てこの地で杖を一突きすると水が湧き出し、今日までに至っていると。

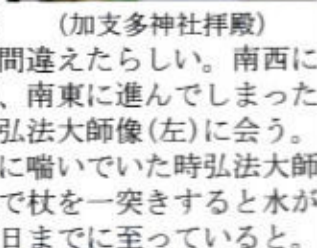


六叉路まで戻り正しい方向に進み「道の池」まで来ると池で網をかけている。鮒が取れるらしい。干拓前の漁なのだろう。そこから約1キロ先のJR熊取駅へ向かい、掃路に就いた。

四角池の横を通り六叉路に出た所で道を間違えたらしい。南西に進むべきの処、南東に進んでしまったのだ。お蔭で弘法大師像(左)に会う。水不足で飢饉に喘いでいた時弘法大師が来てこの地で杖を一突きすると水が湧き出し、今日までに至っていると。



六叉路まで戻り正しい方向に進み「道の池」まで来ると池で網をかけている。鮒が取れるらしい。干拓前の漁なのだろう。そこから約1キロ先のJR熊取駅へ向かい、掃路に就いた。



六叉路まで戻り正しい方向に進み「道の池」まで来ると池で網をかけている。鮒が取れるらしい。干拓前の漁なのだろう。そこから約1キロ先のJR熊取駅へ向かい、掃路に就いた。



歩こう会11月例会 河内飯盛山(314m)登山

四條畷神社→飯盛山→野崎観音

11月14日(日)午前10時半JR学研都市線四條畷駅に集合したのは、二宮、藤田、安徳、浜田および名越の同窓生5名とゲスト参加の岡本、野村の両氏の合計7名。駅前の酒屋さんで飲物と肴(?)の調達に時間がかかり、出発したのは40分を過ぎていた。



四條畷神社への参道を東進する途中、「楠公交(駅前の酒屋さんで何を調達?)番」「楠公橋」等の標示がある。一瞬神戸のどこかにいるのか、と錯覚するも、ここは楠木正行所縁の地であることを予習していたので納得。

「別格官幣社四條畷神社」と標記された石柱の側の大鳥居をくぐり、さらに10分ばかり歩き、長い階段を上った所の両脇に建てられた門柱に「有孚」「顯若」と記されていた。後で安徳氏が神社関係者と思しき人に尋ね読み方は判明したが、意味するところは判らず。ネットで調べ、易経64卦の中の「観」に表れる文の一部で、孚(まこと)有(ありて)顯若(キョウジャク)(うやうやしくおごそかなこと)たるべし、と。



境内には楠木正成・正行親子の「桜井の別れ」の場面の彫像があり、台座に「忠孝両全」とある。忠義・孝行、両方とも完全に!という意味だと説明されている。

(桜井の別れ)

因みに桜井の駅は、大阪府島本町にある。

四條畷神社本殿前で記念写真を撮る(右)



(本殿前で記念写真)

四條畷神社のご祭神は楠木正行(小楠公)と一族の部将25柱で、明治23年4月鎮座され、国家の忠臣を祭る特別な神社、別格官幣社とされていた。

神社の横を通り、飯盛山への登山口に差し掛かる頃遅れて来た元田氏が追いついてきた。



(登山入口は歩き易く)

上り始めて45分、眺望の良い休憩所に到着したが曇り空(黄砂?)で景色はぼやけてさっぱりだ。近くの広場に飯盛山史蹟の石碑と登山参百回記念の石碑が建てられていた。そこから下り、又上ると小楠公像が見えてきた。



小楠公(楠木正行)は、四條畷の戦いで足利尊氏の部将・高師直軍と戦い敗れた時は弱冠23歳だったとのこと。この立像の台座にも、忠孝両全と記してある。



(楠木正行立像)

この飯盛山山頂には、飯盛城が南北朝時代に築かれ、室町幕府の実力者三好長慶が入城して、政治文化の中心となり、全盛期には、南北1200m、東西500mの城域に大小約70の郭(くるわ)が築かれ、全国でも有数の山城といわれているとのこと。

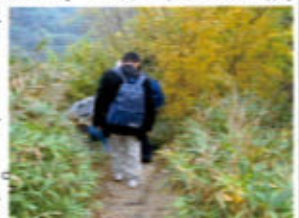
立像の前の広場で昼食をとる。



(二宮、野村、元田、浜田、藤田、名越、安徳、岡本)

この山頂の掲示版の一つに全国の飯盛山を紹介したものがあつた。60数余が羅列され、大阪府に2か所兵庫には5か所、加古川、龍野三田、加西そして福崎町にあるそうだ。

昼食を終えて今度は急峻な下り坂をへっぴり腰で下りて行く。ロープを頼りに下りなくてはならないところもある。



(急峻な下り坂を)

40分位山道を下り続け、やっと広い舗装された道に出た。そこから比較的緩やかな坂道を下りて野崎観音(慈眼寺)に到着した。

野崎観音と言えば、東海林太郎の野崎小唄、そしてお染久松の物語。境内には絵巻物風に「新版歌祭文」お染久松の物語が掲示されている。



(野崎観音・慈眼寺)

またお染久松の塚もある。油屋の娘と丁稚久松の悲しい恋物語だが、皆さんはご存じの事でしょう。作者は近松半二。

野崎観音からゴールのJR野崎駅まで徒歩で15分ほどだ。野崎参道を通り抜けて谷田川にかかる「久作橋(久松の義父の名前)を渡ると野崎駅だ。アルコール会なし、何処にも寄り道せず真っ直ぐJRで三宮へ帰着。

損害保険・医療保険・がん保険
の総合保険代理店
安心の発信基地



大村保険サービス

代表 大村 実良
(昭和33年商学部卒)

652-0897

神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302

TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316